

<香川県内の経済動向>（平成29年9月19日作成）

現在の景気：緩やかな回復を続けている。

3か月程度の見通し：緩やかな回復へ向けた動きが続くと考えられる。

個人消費：基調的には持ち直している。

7月の百貨店・スーパー販売（速報値）は、前年比2.7%減と8カ月連続で減少。店調後は前年比2.3%減と3カ月連続で減少。7月のコンビニエンスストア販売（速報値）は、前年比（店調前）0.4%減と5カ月ぶりに減少。7月の専門量販店販売（速報値）は、家電大型専門店が前年比（店調前）5.0%増と2カ月ぶりに増加、ドラッグストアが同5.0%増と28カ月連続で増加、ホームセンターが同4.5%減と2カ月ぶりに減少。7月の乗用車新車販売は、普通乗用車で前年比3.2%と減少したものの、小型乗用車で同1.8%増、軽乗用車で同11.5%と増加し、全体では前年比4.5%増と9カ月連続で増加。

住宅建築：基調的には持ち直している。

7月の住宅着工戸数は、持家で前年比0.4%増、貸家で同42.0%増、分譲住宅で同492.6%と増加し、全体では前年比47.1%増と4カ月連続で増加。

設備投資：底堅く推移。

「全国企業短期経済観測調査結果（2017年6月）-香川県-」における2017年度のソフトウェア・研究開発を含む設備投資額（除く土地投資）は、全産業で前年度比24.2%増見込み。

公共工事：振れを伴いつつも高水準で推移。

7月の公共工事請負額は、国・独立行政法人等で前年比4.3%増、県で同34.6%増、市町で同430.4%と増加し、全体では前年比115.4%増と4カ月ぶりに増加。4～7月の年度累計では前年比16.1%減少。

輸出：底堅く推移。

7月の県内通関輸出額は、主要品目である船舶で前年比178.4%増となり、全体では前年比143.0%増と2カ月ぶりに増加。1～7月の累計では前年比6.7%増加。

生産活動：振れを伴いつつも緩やかな持ち直しの動きがみられる。

6月の鉱工業生産指数（季調済）は、前月比7.0%上昇し、98.1と2カ月ぶりに上昇。原指数は、前年比2.2%低下し97.7と2カ月連続で低下。非鉄金属工業（電気金、電気銅）、化学・石油石炭製品工業（医薬品）などで上昇。電気機械工業（半導体集積回路・開閉制御装置）、輸送機械工業（鋼船）などで低下。

観光：堅調に推移。

7月の県内テーマパークを含めた主要観光地の入込客数は、前年比0.8%増と5カ月連続で増加。1～7月の累計では前年比7.8%増加。

雇用情勢：好調に推移。

7月の有効求人倍率（季調済）は、前月比0.05ポイント低下の1.73倍。新規求人数（原数値）は、運輸業・郵便業、建設業等で減少し、全体では前年比3.8%減と4カ月ぶりに減少。

（トピックス）

○8月18日、香川県高松市内で開かれた瀬戸内国際芸術祭実行委員会（会長・浜田知事）の総会において、2019年に開催される「第4回瀬戸内国際芸術祭」の基本計画が決定した。同計画によれば、会場は、直島、豊島、女木島、男木島、小豆島、大島、沙弥島、本島、高見島、栗島、伊吹島の県内11島と岡山市沖の犬島、高松港と宇野港周辺。会期は春が4月26日～5月26日の31日間、夏が7月19日～8月25日の38日間、秋が9月28日～11月4日の38日間。夏会期は前回より11日間短く、秋会期は8日間長くなる。3会期合計で107日間と、前回より1日短くなった。実行委は来年3月までに、各島の取り組みを具体化した実施計画をまとめる方針。芸術祭は3年に1度開催。昨年3～11月に開催した前回は206作品を公開し、国内外から延べ約104万人が訪れた。

項目	変化方向			評 価				
	好転	不変	悪化	晴	晴一部曇	曇	曇一部雨	雨
現在の景気	○	●	○	○	○	●	○	○
3か月程度の見通し	○	●	○					
個人消費	○	●	○	○	○	●	○	○
住宅建築	○	●	○	○	●	○	○	○
設備投資	○	●	○	○	○	●	○	○
公共工事	○	●	○	○	●	○	○	○
輸出	○	●	○	○	○	○	●	○
生産活動	○	●	○	○	○	○	●	○
観光	○	●	○	○	○	●	○	○
雇用情勢	○	●	○	○	●	○	○	○
企業収益	○	●	○					
企業倒産	○	●	○					
資金需要	○	●	○					